

「食べてほしい。」で、期限間近の食品の廃棄を減らす

(吉崎高等学校生徒・大学生チーム)

食べられる状態で廃棄される食品ロスを減らそうと、長崎県立吉崎高等学校の生徒を中心としたチームが、**期限の迫った食品の購入を促すシール「食べてほしい。」を考案**。実際にシールを使った検証では、**効果を実感**。

- 「食べてほしい。」を考案したのは、「イノベーションサマープログラム2019※」に参加した全5チーム(36名)のうち、**吉崎高等学校の生徒と大学生の8人のチーム**。

《「食べてほしい。」を考案したチームのメンバー》



※ 吉崎市が設立した一般社団法人「吉崎みらい創りサイト」が開催したプログラム。吉崎高等学校全面協力の下、吉崎市が取り組んでいる。SDGsの「経済・社会・環境」の視点に沿って市内の事業所を訪問し、それぞれの問題点・課題と向き合って高校生ならではの新しいアイデアを創造する。

- **食べられる食品を最後までおいしく食べてほしいと、シールの名前は「食べてほしい。」と命名**。同校の美術部に依頼して、シールのデザインが完成。

《生徒らが考案した「食べてほしい。」》



- **2020年1月5日～17日の約2週間、同店で食べられるのに廃棄される可能性のある期限間近の食品に、「食べてほしい。」を貼り、購入を促す店舗での検証を実施**。

◎期間中にシール2,000枚を消費。シールを貼った食品が、**1日当たり150～200点ほど売れ**、貼る前と比較して、**食品ロスを減らす取組として効果を実感**。

- **市内のスーパーマーケット「スーパーバリューイチャマ」を訪問し、期限の迫った食品の廃棄など、店舗での食品ロスの問題を知る**。

- チームは**食品ロスを減らす解決策**を考え、同店へ**提案**。

【チームの提案】

- 総菜の宅配サービス
- 売れ残った食品の無料配布
- 賞味期限が近い食品の購入を促すシールなど

店舗側が取り組みやすいシールに決定。



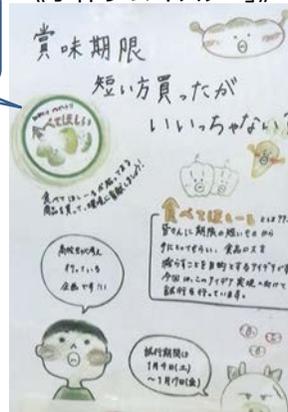
- シールの検証に向け、**店舗と繰り返し打合せ**を実施。

店舗側は、**シールを貼った食品を購入すると同スーパーのポイント**を付与することを決定。

それぞれの気付きが得られた様子

店舗では、ポスター展示や放送でPR

《手作りの「ポスター」》



《シールが貼られた食品》



お客様へは、シールを目安に手に取りやすく

ポイント付与を明示し、お客様へインセンティブ

店舗側へは、売りきる取組への後押し

【検証を終えての感想】

【チームの一員】 賞味期限が迫った食品を買うだけでも食品ロス対策になるなら、今後も積極的に続けたい。

【店舗側】 シールのおかげで、ポイント還元タイミングを早くできた事で売りきることが出来た。結果的に食品ロス削減につながった。今後も改良を重ねてシールの使用を続ける予定。

【お客様】 高校生が取り組んでいるなら、とシールを貼った食品の購入に協力。